

創立146周年

学校便り



進取

令和4年度

No.6

令和4年10月31日発行

阿久根市立阿久根小学校
29学級 児童数434人

子供の自尊感情を育てたい！！

校長 深川 光久

運動会の応援ありがとうございました。今年は3年ぶりに華の50歳組も行われ、関係の方々も喜んでおられました。新しい取組として、運動会前の1週間は50歳組の皆さんに朝の挨拶運動をしていただきました。子供たちのためにできることを考えて取り組んでくださったところです。地域の皆様が子供たちの教育に関わってくださることは有難いことです。コロナが収束したら、今以上に地域の方々に関わっていただければと思います。

さて自尊感情（自分を大切に思う気持ち）は、子供たちが心身共に健やかに成長していくためには大事な気持ちであると言われてしています。

自尊感情には、2つありどちらも大切であると言われてしています。「社会的自尊感情」「基本的自尊感情」です。

「社会的自尊感情」

よく子供は褒めて伸ばすと言います。たくさん褒めてくださいと教師も言うと思います。何かができて、褒めてもらえることで育つのは「社会的自尊感情」と言われます。成功体験で褒められることにより、自分に自信を深めていきます。しかし、この自尊感情は一時的であり、褒められなかったり、失敗したりすることによりしぼんでしまうことがあります。褒めることは大切ですが、これだけでは足りないということになります。

「基本的自尊感情」

誕生したときに、温かい手に抱かれ幸せな思いは、誰もが心の中に「心のたからもの」として残ってるものだそうです。そして、それをさらに強化していくのが「共有体験」です。家族や友達と同じものを見て、「面白いなあ、楽しいな。悲しいな。」など感情を共有していく体験が重要だそうです。そうしてできあがっていく自分はこれでいいんだと思える感情が「基本的自尊感情」です。

人間関係の2つの関係「向き合う」と「並ぶ」

この世に生まれた赤ちゃんは、正面から保護者に見られ愛情を感じていきます。「向き合う」関係です。そして、同じものを見て、同じ感情を共有する経験は「並ぶ」関係です。一緒に並んで見ることは生後6か月頃からできるそうです。そこからは、「並ぶ」関係は人間関係を深めるためとても大切です。

このように考えると、一緒に並んでご飯食べたり、家族で横に並んでテレビや映画を見て、笑ったり泣いたり感動したりすることも大事な共有体験と言えます。ペットや家族が亡くなりそれを見送る悲しい体験も、横に並んで感情を一つにします。一緒に布団に入って、絵本の読み聞かせをするときなどまさしく共有体験になりますね。横に並んで、お子さんと感情を同じにする時間を大切に、いいところをどんどん褒めてください。

学校では、運動会で同じチームを応援し、勝って一緒に喜んだり、負けて一緒に悲しんだりします。そのときに必ず友達が横にいて並んでいます。先日あった4年生の市制70周年記念式典での合唱でも、友達が隣にいて、一緒に緊張して、終わったら一緒にほっとして、一緒に喜び合います。授業中は机を横に並べていますから、感動があればいつでもそれを共有していることになります。あらゆる機会に共有体験はできます。